

紀泉高原鳥獸保護区

# 鳥獸保護区指定調査報告書

平成 25 年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

## 1.調査の目的

この調査は、平成 26 年 11 月 1 日から拡大が検討されている、紀泉高原鳥獣保護区の野生鳥獣等の生息状況を把握し、基礎資料とする事を目的とする。

## 2.調査区域及び調査対象

紀泉高原鳥獣保護区及び、拡大検討区域である岬町所在国有林 810、811 の林班に生息する野生鳥獣等。

## 3.調査内容

実地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

## 4.調査地の概要及び環境

紀泉高原鳥獣保護区は、和歌山県と境を接する大阪府の南部、阪南市の最南端に位置する。阪南市所在国有林 801、802、806、807 の各林班、鳥取池及び同池堤防を含む一円の区域である。また、拡大検討地は岬町所在国有林 810 と 811 の林班区域である。範囲内に鳥取池と栄谷池があり開水面があるが、そのほかは山地地形である。

保護区内の植生はモチツツジーアカマツ群集、クロマツ植林(アカマツ混交)、スギ・ヒノキ植林で構成されている。俎石山の山頂一帯は野鳥の良好な生息環境であるが、樹相を見ると、高木、亜高木層では、コナラ、アカマツが多く、ヤマザクラ、リョウブ、ウラジロノキ、クロマツ、アラカシ、ウバメガシ、ソヨゴ、ヤマモモ、クロバイ、カクレミノ等が見られ、低木層ではモチツツジ、シロダモ、ネズミモチ、イヌツゲが多く、ネジキ、ヤブムラサキ、コバノガマズミ、ウツギ、ヒサカキ、シャシャンボ等が見られる。草本層ではコウヤボウキ、サルトリイバラ、ベニシダ、コシダ、ネザサ等が見られる。また、拡大検討区域、岬町所在国有林 810 と 811 の林班の植生はシイ・カシ萌芽林であり、シイやカシの類に加えて、カクレミノやシロダモも多い。

鳥獣保護区や検討区域内では、特に一等三角点を持つ俎石山や大福山は、自然度の高い山として人気が高まり、登山道も整備され、ハイキング、森林浴や憩いの場として、最近では訪れる人が多い。

## 5.調査地域図

調査地域図を添付図 1 に示す。

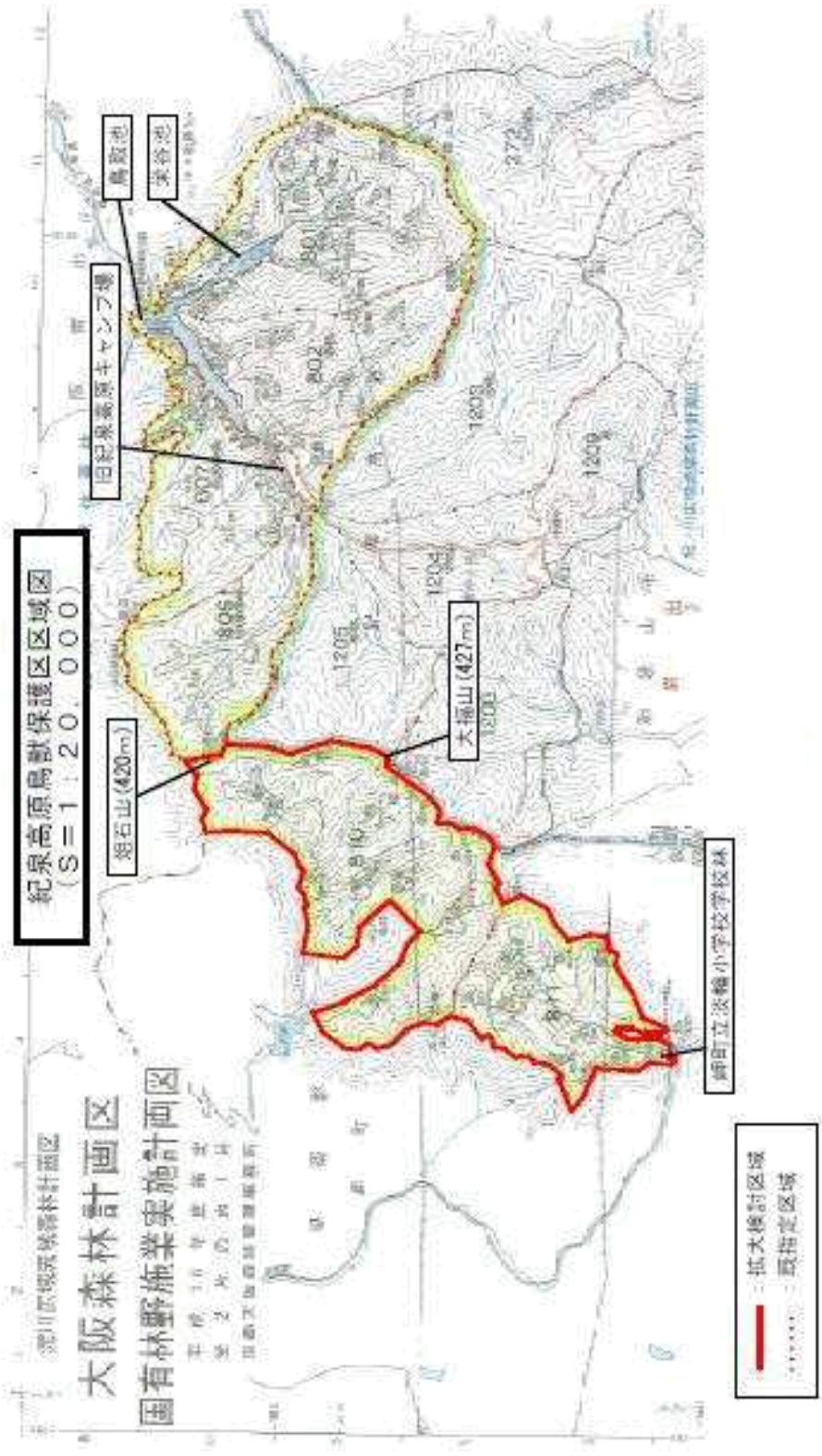


図1

## 6.調査方法

以下に示す資料による文献調査及び現地調査によった。

文献 1: 日本野鳥の会大阪支部『むくどり通信 No158～229』

文献 2: 小海途銀次郎調査資料

文献 3: 廣田博厚フィールドノート

文献 4: 大阪市立自然史博物館資料

現地調査は、文献調査の補足及び最新の状況把握を主眼として実施した。当保護区及び拡大検討区域内の野鳥生息環境が最も良好と思われる、旧紀泉高原キャンプ場から俎石山頂経て、林班 810 を 2km/hr で歩行し、半径 50m の範囲の鳥類を確認するルートセンサス法を採用した。

## 7.調査結果

### 7-1.鳥類の確認

今回の調査により、紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域内で確認した紀泉高原確認鳥種一覧表を添付表 1 に示す。分類は 2012 年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第 7 版』によった。なお、コジュケイは中国東南部原産の鳥であるが、今回は調査対象とした。

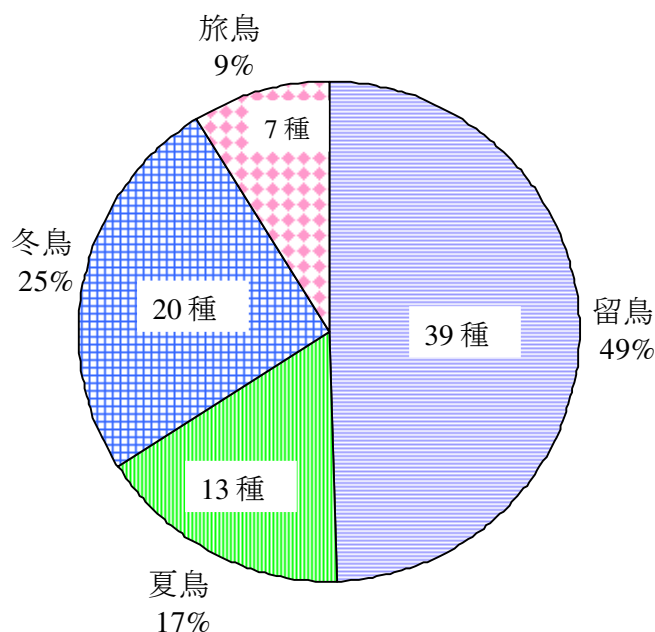


図 2 生息区分割合 (%)

文献調査および現地調査にて79種の野鳥を記録した。記録した鳥類の内訳は、留鳥39種、夏鳥13種、冬鳥20種、旅鳥7種である。

生息地位については2002年刊行の(財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録2001』によった。図2に確認鳥79種の生息区分割合を示す。すなわち、留鳥49%、夏鳥17%、冬鳥25%、旅鳥9%であった。なお、留鳥(一部冬鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)など()付きの種についてはそれぞれ留鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

文献1、文献2、文献3および現地調査での出現状況を留鳥39種をみると、季節ごとの出現数の多いのはキジバト、アオバト、ミサゴ、トビ、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイの21種である。これらの種は周年、紀泉高原鳥獣保護区に生息していると思われる。これらの内、アオバト、ヒガラ、コジュケイを除く18種は全ての月で確認され、現地調査でも確認された。

今回の調査で確認された夏鳥はミゾゴイ、ホトギス、ツツドリ、ハチクマ、サシバ、サンコウチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリの13種であった。この内、5/20～7/20の夏期に確認されたのは、ハチクマを除く12種であった。

今回の調査で確認された冬鳥は、オシドリ、ハイタカ、ノスリ、アカゲラ、チョウゲンボウ、クキイタダキ、ヒレンジャク、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、カヤクグリ、ビンズイ、マヒワ、ウソ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジの20種であった。この内、12/1～2/末の冬期に確認されたのは、ノスリ、アカゲラ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、カヤクグリ、ビンズイ、マヒワ、ウソ、カシラダカ、アオジ、クロジの13種であった。

今回の調査で確認された旅鳥は、アマツバメ、ヤイロチョウ、イワツバメ、メボソムシクイ、アカハラ、コマドリ、コサメビタキの7種であった。

次に、繁殖および繁殖の可能性について述べる。繁殖および繁殖の可能性については留鳥39種、夏鳥13種の合計52種を対象に、繁殖の可能性の判定を行なった。繁殖の可能性の判定は環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』の判定基準に従って判定を行なった(表1の注8)を参照)。

その結果、繁殖を確認したもの(aランク)は、ミゾゴイ、ミサゴ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メジロ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイの15種であった。

また、繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性のあるもの(bランク)はキジバト、アオバト、ホトギス、ツツドリ、サンコウチョウ、ヒガラ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、イカルの12種であった。

また、生息を確認したが繁殖についてはなんともいえないものc～fは、繁殖を確認出来なかったものである。繁殖期に生息を確認したが、繁殖が確認出来なかったもの(cランク)は11種であった。また、繁殖期に生息を確認出来ず、繁殖についてはなんともいえないもの(fランク)は14種であった。従って、今回の調査で繁殖とその可能性を確認できなかったものは25種であった。

図3に3繁殖の可能性(%)に示す。繁殖を確認したものは29%、繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性のあるものは23%、繁殖を確認出来なかったもの48%であった。繁殖を確認したものと繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性のあるものの合計は52%と高い割合である。これらの種の内、ミゾゴイ、アオゲラ、ヤマガラ、ヤブサメ、エナガ、アオバト、ホトギス、ツツドリ、サンコウチョウ、ヒガラ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル等は良好な自然環境を好む種であり、これらは紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域の重要性を示している。

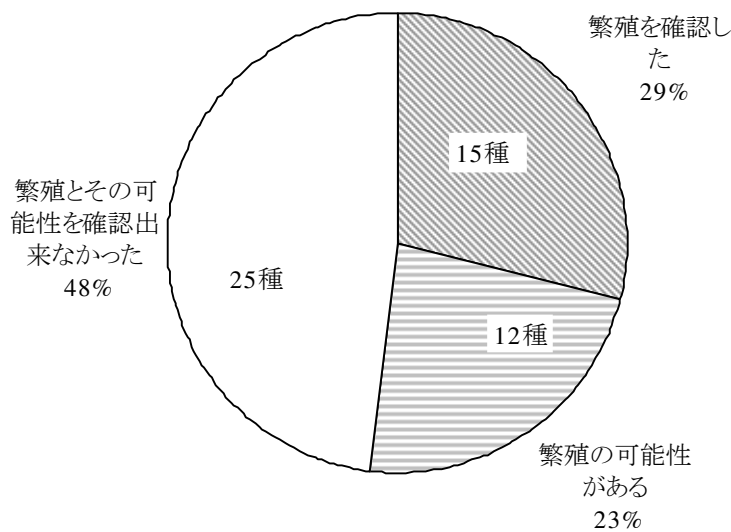


図3 繁殖の可能性 (%)

今回の調査で、絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律施行令の国内希少野生動植物種として、オオタカ、ハヤブサ、ヤイロチョウの3種が確認された。

環境省レッドリスト記載種9種、大阪府レッドデータブック記載種29種の希少鳥類が

確認された。すなわち、環境省レッドリスト記載種は、絶滅危惧 I B 類(EN)としてヤイロチョウ 1 種、絶滅危惧 II 類(VU)としてミゾゴイ、サシバ、ハヤブサの 3 種、準絶滅危惧(NT)としてミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの 4 種、情報不足(DD)としてオンドリ 1 種が確認された。また、大阪府における保護上重要な野生生物(大阪府RDB)は絶滅危惧 II 類として 8 種、準絶滅危惧として 12 種、要注目として 8 種、情報不足として 1 種が確認された。

拡大検討区域では、2013 年の春期から夏期にかけて、55 種の野鳥が確認された。この内、猛禽類はミサゴ、ハチクマ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサの 8 種と多くが確認された。食物連鎖の頂点に立つ猛禽類が多く確認されたことは、この区域の自然度の高さを物語っている。また、ミゾゴイの繁殖が確認された。ミゾゴイは自然度の高い広葉樹林に繁殖する野鳥であり、特筆に値する。更に、ミサゴが当地を囲むように近隣で 3 番も繁殖しており、大阪府域では他に例がなく、特筆すべき場所である。これらの鳥で、絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律施行令の国内希少野生動植物種として、オオタカ、ハヤブサの 2 種が確認された。ミゾゴイ、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ハヤブサの 7 種は環境省レッドリスト記載種である。

## 7-2 哺乳類の確認

文献 2、文献 4 で 16 種の哺乳類が生息していることが確認された。哺乳類確認種一覧表を表 2 に示す。順位、目名、科名、種名は大阪府野生生物目録 2000.3 に従った。

大阪府における保護上重要な野生生物(大阪府RDB)によれば、絶滅危惧 II 類としてキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリの 2 種、準絶滅危惧としてキツネ、アナグマの 2 種、要注目としてニホンリス、カヤネズミの 2 種、情報不足としてジネズミ、ニホンイタチの 2 種の、合計 8 種が確認された。

拡大検討区域では、2013 年の春期から夏期にかけて、ニホンリス、タヌキ、テン、ニホンイタチ、アナグマ、イノシシの 6 種が確認された。また、当地は調査期間中、日中にテンが採餌していたり、アナグマに 3 度遭遇するなど、獣類の密度が高いと思われる。大阪府RDBでは、準絶滅危惧としてアナグマの 1 種、要注目としてニホンリス 1 種の合計 2 種が確認された。

表 2 哺乳類確認種一覧表

No	目	科	種名	学名	文献 2	文献 4
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>		○
2	モグラ	モグラ	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>		○
3	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>		○
4	コウモリ	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>		○
5	ウサギ	ウサギ	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>		○
6	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>		○
7		ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>		○
8			アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		○
9			ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		○
10	ネコ	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		○
11			キツネ	<i>Vulpes procyonoides</i>		○
12		イタチ	テン	<i>Martes memlampus</i>	○	
13			ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	○	
14	アナグマ		<i>Meles meles</i>	○	○	
15	ウシ	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>		○
16	ネコ	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>		○

## 8.まとめ

1. 今回の調査で、紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域で 79 種の野鳥が確認された。内訳は留鳥 39 種、夏鳥 13 種、冬鳥 20 種、旅鳥 7 種である。
2. 留鳥 39 種、夏鳥 13 種の合計 52 種について繁殖の可能性を調べた結果、紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域で繁殖を確認したもの 15 種、繁殖の可能性があるもの 12 種であった。これら 27 種は全体の 52%と高い割合である。
3. 今回の調査で、絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律施行令の国内希少野生動植物種として、オオタカ、ハヤブサ、ヤイロチョウの 3 種が確認されたことは特筆に値する。また、環境省レッドリスト記載種は、絶滅危惧 I B 類(EN)としてヤイロチョウ 1 種、絶滅危惧 II 類(VU)としてミゾゴイ、サシバ、ハヤブサの 3 種、準絶滅危惧(NT)としてミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの 4 種、情報不足(DD)としてオシドリ 1 種が確認された。環境省レッドリスト記載種 9 種と、多くが確認されたことも極めて重要である。
4. また、繁殖を確認したもの、繁殖の可能性のあるものの内、ミゾゴイ、アオゲラ、ヤマガラ、ヤブサメ、エナガ、アオバト、ホトギス、ツツドリ、サンコウチョウ、ヒガラ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル等は良好な自然環境を好む種であり、これらは紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域の重要性を示している。この一帯は特に自然環境の保護が肝要である。
5. 今回の調査で、16 種の哺乳類が生息していることが確認された。大阪府レッドデー



タブック記載種は、絶滅危惧Ⅱ類としてキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリの 2 種、準絶滅危惧としてキツネ、アナグマの 2 種、要注目としてニホンリス、カヤネズミの 2 種、情報不足としてジネズミ、ニホンイタチの 2 種の、合計 8 種が確認された。

6. 拡大検討区域では、猛禽類 8 種が確認された。食物連鎖の頂点に立つ猛禽類が多く確認されたことは、この区域の自然度の高さを物語っている。また、ミゾゴイの繁殖が確認された。ミゾゴイは自然度の高い広葉樹林に繁殖する野鳥であり、特筆に値する。更に、ミサゴが当地を囲むように近隣で 3 番も繁殖しており、大阪府域では他に例がなく、特筆すべき場所である。これらの鳥で、絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律施行令の国内希少野生動物種として、オオタカ、ハヤブサの 2 種が確認された。ミゾゴイ、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ハヤブサの 7 種は環境省レッドリスト記載種である。
7. このように、紀泉高原鳥獣保護区及び拡大検討区域である岬町所在国有林 810 と 811 の林班は希少鳥類が多数生息し、鳥類の生息に適した環境であると共に、府下の鳥類生息地として極めて重要な地域であると言え、鳥獣保護区を拡大して更新を続け、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることが重要であると考えられる。

## 9. 観察した鳥類の写真

図 4 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

## 10. 参考文献

1. 大阪府 2000 年 大阪府における保護上重要な野生生物  
- 大阪府レッドデータブック -
2. 大阪府 大阪府野生生物目録 2000.3
3. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
4. 環境省 報道発表資料-平成 24 年 8 月 28 日-第 4 次レッドリストの公表について  
(お知らせ)
5. 日本鳥学会 2012 年 日本鳥類目録 改訂第 7 版
6. 環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』

## 紀泉高原の野鳥



ミゾゴイ



オオタカ



ハヤブサ



ルリビタキ



ミサゴ



キビタキ